宮崎県総合博物館　第３期中期運営ビジョン評価表（令和４年度）

評価欄の数値は４段階評価数値

☆外部評価は、宮崎県博物館協議会委員による評価

内部評価　４…指標を大きく上回った　３…指標を達成できた　２…指標をやや下回った　１…指標を大きく下回った

外部評価　４…期待以上できた　３…ほぼ期待どおり　２…やや期待を下回る　１…改善が必要

※　内部評価及び外部評価の総合評価は、平均値の小数点第１位まで（第１位を四捨五入）

（１）　調査研究

項目	評価指標		令和４年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
１）調査研究成果の公表	研究紀要の発刊	年１回	研究紀要 １回	①３月に10編の論文からなる「研究紀要　第43輯」を発行した。本県の自然史・歴史等を解明するための基盤的情報の蓄積に貢献できた。学芸課を中心とした対象職員が執筆し、報告した。 ②次年度は水系別総合調査研究（五ヶ瀬川・北川水系）の最終年度となるため、研究成果の報告が掲載される予定である。	3	3.0	①総合博にしても考古博物館にしても,特別展示の際の担当者の説明には大変情熱を感じます。日常の研究への姿勢をいつも見せて頂いており、感謝いたします。 ②それぞれの職員の専門が多岐にわたっていて県総合博物館の層の厚さを感じます。研究紀要も見応えがあります。 ③子どもたちの目にふれるような学校の授業等で活用されると良いと思います。興味深い研究の数々をありがとうございます。 ④目標を達成できており、評価できる。なお、調査研究報告会については、職員以外の参加者が７名あったが、館外の関係者の参加は、当館の研究成果のアピールや情報発信の効果に繋がるため、大変良い取組と考える。今後は報告会への職員以外の参加者をさらに増やすための取組を進めることが望まれる。 ⑤各学芸員が宮崎を代表する専門家の場合が多く、各分野に渡り、新たな取り組みと外部との連携で宮崎県内の自然・歴史・考古・文化等多岐にわたり、宮崎の文化財を解明にする砦として活躍している。また、当博物館や他の機関との連携と発表の場として存在する意義は大きい。一方、人事異動で新しい学芸員の参入は常である。やがて、これまでの学芸員と同様に宮崎県を代表する研究成果を発揮することを期待します。 ⑥日々の多忙な業務の中，調査研究において対象職員全員が論文執筆まで行っており，年間目標値をしっかりと達成されている点は、同じ研究者として尊敬いたします。次年度はぜひ評価基準4を目指して頑張ってください。 ⑦調査研究報告会、『紀要』とも、ほぼ期待どおりの成果である。報告会のZoom併用は遠距離の参加が可能となるので今後も継続されたい。ところで「内部評価基準表」の「研究紀要」では４を「年２回以上刊行」、３を「対象職員全員が執筆」とし、今回は３と評価されている。しかし「年２回以上刊行」は予算等の別の事情から、そもそも現実的ではないのではないか。また今回の『紀要』に学芸課職員が全員執筆されているわけではないようだが、非執筆者を「対象職員」ではないと出来る評価基準は恣意的なものになりかねないのではないか。今後の評価基準見直しの際に検討されてはいかがかと思う。 ⑧県内に地域課題を求めて、休日も含め現地調査に赴き、まとめられた興味深い内容だった。努力された各人に敬意を表すると共に、研究を大事にする博物館としての在り方が一層継承されることを望みます。貝の分析から古代の環境や海進を浮き上がらせるという研究内容とその視点に、多くを学ばせていただいた。 ⑨紀要は，対象職員全員が執筆し、充実した内容になっている。調査研究報告会も，興味深い内容であり，遠隔参加も可能だったが、成果の公表を目的とするなら、案内や日時を含め、さらに館外者の参加しやすい開催方法等をご検討いただきたい。 ⑩「研究紀要」には各分野の担当者が貴重な資料に関する丁寧な論文を報告されており、評価される。	3.6
	調査研究報告会	年１回	１回 (3/14開催)	③３月に職員10名が研究紀要掲載研究の報告を中心とする調査研究の結果や収蔵資料に関する内容についての報告を行った。 ④新型コロナウイルス感染拡大防止のため館外の関係者はＺＯＯＭによるオンライン形式での参加とした。職員29名のほか、博物館協議会委員２名、等協議会加盟館員４名、総合博物館友の会会員１名が参加した。	3			

（２）　収集・保存

項目	評価指標		令和４年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
１)収集・管理	資料の収集	2,500点 （年平均500点）	1,141点	①各部門で1,141点の収集資料を行った。主な収集資料は以下のとおりである。 動物部門ではデメニギス模型、マッコウクジラの脳油、メダカハネカクシ属標本、ノコギリクワガタ（蛹化不全）標本など。植物部門では、さく葉標本、ショウキランレプリカ。地質部門では県産化石標本や岩石鉱物標本。考古部門では宮崎市池内町小鹿出土の平安時代土器群。歴史部門では根井家資料、清武落合家伝来陣笠など。民俗部門では、投網、掛け軸（雛壇）など。 ②資料の収集および登録については、年平均の目標点数を上回っている。しかし、図書・文献の収集については、デジタルデータでの公開や、当館の事業内容と関連性が少ない機関からの提供停止などの影響のため目標値を下回った。 ③収集・登録した資料は適切な環境下で保存し、展示や体験用に活用する予定である。今後も引き続き資料の所在情報の収集や館外調査を実施し、重要な資料の収集に取り組むとともに、未登録資料の整理・登録を行っていく。	最終年度に評価	3.0	①目標を、達成できており、評価できる。 ②県の自然、歴史、民俗の資料を、1次2次資料を含め収集が継続しており、保存や整理も行われているとの報告を受ける。 ③博物館として資料の保管は後生に資料を引き継いで行く上で重要な責務であると思います．しっかりとその責務を果たされていると思いますので，継続いただきたいです。 ④「収集資料の整理・登録」の1140点は昨年度までよりも大幅増で良かった。ただ「資料の収集」数は1141点で僅かに上回っている。収集数が整理・登録数を上回る状態は昨年に限ったことではなく続いていると思われ、未登録資料が累積するばかりではないか。整理・登録作業が一層進捗することを希望する。 ⑤課題は様々あると思われるが、不足する分野、特に必要とする分野には、日ごろからリスト化して、着実に年間の収集蓄積を図ってほしい。 ⑥図書・文献については，資料のデジタル化に伴い，次期目標は見直してもよいのではないか． ⑦全体としては目標値を上回る数の資料を収集していることは評価される。	3.0
	図書・文献の収集	5,000点 （年平均1,000点）	868点					
	収集資料の整理・登録	5,000点 （年平均1,000点）	1,140点					
	合計	（年平均 2,500点）	3,149点					
２）保存	トラップ調査	年12回	12回	④本館では平成23年度からIPM（総合的虫菌害管理）の考えを取り入れた資料保存に取組んでいる。令和４年度も全職員によるIPMウオッチング、学芸課担当職員によるモニタリング調査を計画どおり実施することができ、日常の点検も丹念に実施し、虫菌害の発生を抑制した。 ⑤月１回、適切な環境を維持するために学芸課職員による収蔵庫の目視・清掃を確実に実施することができた。	3			
	ＩＰＭ ウオッチング	年12回	12回					

（３）　展示

項目	評価指標		令和４年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
1）入館者数	本館入館者数及び民家園入園者数	年平均17万人	本館入館者数 149,424人 民家園入館者 54,034人	①本館の入館者数については、例年10万人程度で推移していた。令和２年度は、新型コロナ感染症拡大により、夏の特別展、博物館講座やイベントなどが中止となり、本館入館者数は56,194名と大幅に減少した。その後，感染症対策を徹底しつつ開館し、特別展やイベントを実施することで令和４年度は149,424名まで回復することができた。平成30年度の数値を超えるまでに回復した。このうち特別展観覧者数が４つの展示会の合計で116,004名となっており、改善の大きな要因となった。 ②団体利用は令和元年（平成30年）度に542団体の利用があったが、令和２年度は，コロナ禍により233団体に落ち込んだ。令和４年度は419団体まで回復している。 ③民家園については、屋外施設であり、コロナ感染症の影響は限定的であった。昔ばなし講演などのイベントの一部中止はあったが54,034名と堅調な利用状況となった。 ④常設展示室における資料入替え、１階エントランスホールや２階ロビーを活用したロビー展の開催などのサービスの向上やＳＮＳを活用した情報発信を行っている。	3	3.3	①コロナ禍からの脱却、ウイズコロナ、アフターコロナとなり、入館者が元に戻りつつあり、特別展やイベント等の実施により、入館者数が伸びているのは情報発信、展示の工夫、職員の努力や新たなチャレンジ、創意工夫によるものであり、大変ありがたい。（ピンチをチャンスへ） ②常設展年15回の評価指標を大きく上回り、年22回実施は高く評価できる。（ちょっとした変化が大事） ③令和４年夏頃まではコロナ感染拡大の忙しい時期が続きましたが、秋頃から一定の収束が見えてきた事と「モンスター水族館」「大錯覚展」等、一般受けする展示会が続き、入館者数増に繋がったと思います。 ④”県民のための博物館”という思いが十分に伝わってくる取り組みです。コロナ禍でも活動を止めることなく工夫しながらの日々は大変だったと思います。高校との取り組みも、教育関係者の立場としてありがたいです。 ⑤入場者数がコロナ感染拡大の影響を受けていた令和２・３年あたりから考えると大きく回復している。また、コロナ以前（平成30年度）の数値を超えている。 ⑥目標回数以上の展示を達成され、コロナ禍であったにも関わらず入館者数が大幅に増加している。アンケートの満足度も非常に高く、子供から大人まで知的好奇心を刺激する歴史・文化の発信が的確に成されている。 ⑦コロナ感染症の中でも、対策をとられ、展示にも工夫が見られ、イベントの一部中止があったとのことだが、入館者数も回復していることは評価できる。 ⑧コロナ禍でも特別展やイベントの工夫が見られた。SNSを活用した情報発信による来場者の増加があったので継続していただきたい。子ども目線の展示を今後もお願いします。 ⑨新型コロナの感染症対策を徹底した上での各種展示やイベント等に積極的に取り組み、新型コロナの７波・８波の厳しい状況の中において、本館入館者が新型コロナ感染拡大前の入館者数を超える実績を挙げたことは、大変評価できる。特に、特別展では県民の興味やニーズに即した実施内容となっており、来場者の満足度も非常に高く素晴らしい取組である。今後とも、県民ニーズや時代の変化等を的確に捉え、多くの県民に利用してもらうための取組を進めて欲しい。 ⑩入館者・入園者数が令和3年度に続き大きな伸びを見せた点は高く評価できる。但し，大人や高大生（団体）の入館者数が伸び悩んでおり、企画や展示等に一層の工夫が必要と思われる。 ⑪宮崎の自然、歴史、民俗が分かり易く展示しているとの評価をよく耳にする。今後とも入れ替えを含み継続して頂きたい。エントランス・ロビー展も多様性に富み興味深い。特別展示も興味深いものが多く評価できる。ただし、特別展示は有料の場合が多く、無料で充実した常設展やエントランス・ロビー展とのアンバランスな感じを受ける。昨年来の特別展示は、いずれも興味深く、解説も楽しい工夫が多かったが、「大錯覚展」は料金が高く解説も少なく、子どもたちも途中から興味が薄れていくのを感じた。これまでの特別展示との温度差を感じていたら、貸館とのことであった。しかし、利用者にとっては県総合博物館の展示と認識する。内容の確認と解説追加等の検討をお願いしたい。オオイタサンショウウオの分類の研究成果の展示は印象的でした。 ⑫コロナの影響がまだ残るなか、目標値を超える入館者数を達成できたのは評価に値すると思います．職員の皆さんの頑張りにつきるのではないでしょうか。 ⑬特別展の来場者数が半分以上を占めていますが、今後は特別展に頼らなくても十分に目標が達成できるような方策の検討も必要かと思います．常設展やエントランス・ロビー展の充実が，より博物館としての価値を上げることにつながると思いますので，大いに期待しております。 ⑭「モンスター水族館」展は内容・入館者数とも大変良い結果であった。「発掘された日本列島2022」は全国の出土物を実見でき、大変有難い機会であった。 ⑮特別展は、子供や家族を想定して、開催時期や観客の関心等を検討して計画されるので、観客動員数も多い。内容もよかった。モンスター水族館は、貴重な国内資料や本館所蔵の資料を用いて、学芸員諸氏の発想・個性・力を生かした素晴らしいものだった。関連事業の実施も、子供たちの理解を深めるよいものだった。他の企画展も工夫して回数多く努力がなされている。 ⑯入館者の8割近くが特別展によっているが，常設展やエントランス・ロビー展の展示替えにも力を入れておられるので、そちらも認知されるとよい。 ⑰コロナ禍の収束が見えないなか、年間入場者が大幅に増加した糧となった特別展の取り組みが重要である。 ⑱「モンスター水族館」は、楽しく深海生物を見せながら、川南に漂着したマッコウクジラの頭骨や、宮崎に関連するウミガメや危険生物などの展示もあるのがよかったです。ポスターにも宮崎に関する展示物について書いてあるといいと感じました。 ⑲「発掘された日本列島2022」は、迫力ある縄文土器に感動しました。県外の学生さんがスケッチや撮影をされていたのですが、来宮のきっかけにもなるのだなと改めて思いました。縄文土器だけでも魅力十分で、もっと多くの人に見てほしかったです。 ⑳ロビーなどでの小さな展示も興味深いのですが、見逃しているものも多かったです。HPにもアップしてほしいです。 ㉑新型コロナウイルスの影響が継続する状況において、特別展や常設展の展示替の積極的な実施により、年平均の17万人を超える20万人の来館者数を確保したことは評価できる。	3.8
			合計 203,458人					
2）常設展	展示替等回数	年15回	22回（368点） 動物 5(5) 植物 4(4) 地質 2(340) 民俗 5(10) 歴史 6(9) 考古 0(0)	⑤自然史展示室の照葉樹林ジオラマでは、動物・植物部門が季節に合わせた展示入れ替えを定期的に行っている。情報室では、地質部門が妻高等学校より移管された化石・岩石・鉱石資料を触察可能な展示物として大規模な入れ替えを実施した。 ⑥歴史展示室のロビーケースでは、歴史部門が新収蔵資料や話題性のある資料に焦点を当てた展示替えを６回行った。 ⑦民俗展示室のロビーケースでは、県の伝統工芸品の佐土原人形を季節に合わせて５回の入れ替えをしながら展示した。	4			
3）特別展	実施回数	年３回	主催事業 ３回 貸館事業 ２回	⑧主催事業としては巡回展「第42回SSP展」、本館の独自企画である特別展「モンスター水族館～深海魚とサメのひみつ～」、文化庁および全国の考古系博物館と協力した「発掘された日本列島2022」を実施し、年３回の目標値を超えることができた。貸館としては「核兵器なき世界への連帯―勇気と希望の選択」展＜宮崎展＞実行委員会主催の同名の展示会、宮崎日日新聞社主催の「大錯覚展　これって　どうなってるの？」を実施した。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を充分に行い、すべての特別展で予定された会期どおりの実施ができた。 ⑨来場者数は、「SSP展」では10,125人、「モンスター水族館」では62,378人、「発掘された日本列島」では4,612人だった。新型コロナ対策が段階的に緩和する傾向に転じたことで、来館者は足を運びやすくなったと考えられ、春・夏の特別展は昨年度よりも多くの来場者数を記録した。また、様々な媒体をとおして実施した広報の効果も来場数に影響したと思われる。 ⑩本館内で実施した主催事業に係る来場者の満足度は、アンケートによると「良かった」以上が「SSP展」では98%、「モンスター水族館」では96%、「発掘された日本列島」では92%であり、高い評価を得ることができた。ニーズに合った企画が実施できていると考えられる。	3			
4）ロビー展	実施回数	年15回	17回	⑪１階のエントランスホール（エントランスケース、展示スペース）や２階の民俗展示室前ロビー展示を、期間・内容・場所のバランスを取りながら、トピックや季節に応じて全17回実施した。内訳は各部門の企画展示13件、県の他機関・学校の展示４件であった。各部門の展示に際しては、関係機関５か所より協力を得て実施した。	3			

（４）　教育普及

項目	評価指標 内容	評価指標 目標値	令和４年度実績	内部評価 評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	外部評価 評価・意見	総合評価
1）学校教育支援	授業支援 教員支援 資料貸出 職場体験学習受入 博物館実習受入	年30回	18回 0回 5回 2回 7回 計　34回	①学校受け入れ校数は210校と、前年度の197校を上回った。遠足や修学旅行での利用が、コロナウイルス感染症の影響から回復しつつある。 ②児童・生徒に対する授業支援は２校上回る10校18回の支援を行った。 ③授業等への支援として各部門の資料を貸出している。今年度は小学校２回、大学２回を実施した。大学では教職員志望の学生の講義に岩石標本等が活用されている。 ④教員支援は九州高校理科研究会の地学部会研究発表会と青島野外研修の対応を地質・植物部門が行った。 ⑤紙屋中学校２年生１名の職場体験学習の受け入れと、県教育研修センターの派遣研修生（現職）３名の１日間の施設研修の受け入れを行った。中学生の職場体験は３年ぶりとなった。 ⑥博物館実習受入は、６大学７人の実習生を受け入れ実施した。実習成果を各自の資料展示を２階ロビーで行った。 ⑦今後も計画的に、学校教育支援に取り組み、博物館の学校支援のメニューや有効性、資料貸し出しの紹介を行うとともに、博物館法の改正により役割が求められる地域の活力向上について資料の活用や開発を進めていく。	3	2.1	①学校教育支援、博物館講座等（アウトリーチ活動含む）については、目標値を上回っており、学校や地域が必要とする資料提供、講座内容であったと捉えられ、評価できる。 ②展示解説については、伸び悩んでいるので、事前広報や周知活動が必要である。 ③博物館と福祉施設の連携については、目標値を大きく下回っているため、新たな連携策を講じる必要がある。 ④幼稚園から大学まで,それぞれの区分に対する協力、支援をして頂いており感謝しています。出前的事業「どこでも博物館」の活動も素晴らしいことだと思います。 ⑤授業支援等の目標値が達成できており、児童、生徒に対する学びへの支援は特に評価したいです。子どもの知的好奇心をくすぐっていることでしょう。今後もどうぞよろしくお願いします。 ⑥令和元年度に実施していただいた「どこでも博物館」が好評だったので、今度は近くの幼保育園や小学校だけでなく、地域の人にも呼びかけて盛り上げていきたい。 ⑦学校受け入れや、授業支援に積極的に取り組まれ、利用も確実に広がっている。教育利用については、見学だけでなく展示品を通した体験的な活動、学年別の学習内容と連動した体験ができるメニューがあっても良いのではないかと思う。 ⑧児童・生徒に文化施設の重要性を理解してもらい、遠足等で、授業支援が増えるとよいと感じた。 ⑨授業支援に対する啓発にも力を入れていただきたい。特に子どもたちへの宮崎の文化継承や昔のくらし,遊びについての出前授業等で宮崎の魅力を伝えていただけるとありがたいです。 ⑩県内の学生のアイディアを形にしていくような運営・企画が増えていくと子ども達の地域を大切に思う心や自己肯定感が育まれると思う。 ⑪新型コロナ感染症の影響により、展示解説や福祉施設との連携事業等の実績が目標を大きく下回ることは、やむを得ないと考える。一方では、学校教育支援やアウトリーチ講座を含む博物館講座などにおいては、実施方法等の工夫により、実績が目標を上回るなど、教育普及活動への積極的な取組姿勢が伺え、大変評価できる。今後とも、アウトリーチ活動の積極的推進や関係機関との連携強化等に一層取り組んで頂き、地域に根ざした教育普及活動を進めて頂きたい。 ⑫引き続きコロナの影響が大きく出ているが、内容的には、よく頑張っている面が多々見受けられる。教育普及の原点を大切にしながら、質・量ともに充実した活動展開を期待する。 ⑬展示解説、民家の活用、博物館と福祉施設の連携の内部評価が1となっている。数値目標に満たなかったと評価しているのであろうが、いずれも、コロナ禍であり、評価1は過小評価し過ぎと感じます。ただ、いずれも、人員的に困難になる可能性があり、更なる工夫は必要と感じます。 ⑭資料を学校教育においてどのような活用が出来るのか、利用を検討している側がその活用方法などをイメージできるよう、HPに過去の事例などを紹介してみてはいかがでしょうか？ ⑮博物館講座は初めて参加させていただきましたが，私自身も学ぶ事が多く、とても良い刺激になりました．特に小学生くらいの年齢の子供たちとふれあうことはこれまであまりなかったので，低年齢層まで集客が出来るのは博物館の良いところだと思います。ぜひ今後も機会をいただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。 ⑯幅広い年代で一緒に楽しめる工夫がされていると感じました。 ⑰「どこでも博物館」、地域の大人の方も一緒に参加していただきたい企画だと思います。 ⑱教育現場は、一般世帯以上に新型コロナウイルスの蔓延対策に慎重であるため、計画通りの取組みや実績を確保することは困難だったと推測している。実績数はやむを得ない。	3.2
2)展示解説	実施人数	年10,000人	5,293人	⑧コロナウイルス感染症の影響で団体が多い時期に解説が実施できないこともあり、展示解説実施人数は目標人数を大きく下回った。今後も来館者への声かけや事前広報に取り組み、利用者の興味や関心を高められるような工夫を行い、多くの来館者に展示解説を実施していく。遠足等での利用を推進できるように広報活動を実施していく。	1			
3)博物館講座等	博物館講座等 （アウトリーチ活動含む） ＊博物館講座等は普及講座・特別展関連講座・民家園講座・「どこでも博物館」 ＊アウトリーチ活動は博物館外で行った講座の回数	年35回 アウトリーチ活動10回	計画37回 実施36回 11回	⑨主催講座は、普及講座（25回：１講座がコロナで中止）と特別展関連講座（８回）、民家園伝統文化体験講座(１回)、どこでも博物館（３回）を実施し、目標値を上回った。 ⑩コロナ禍ではあったが、講座をできるだけ中止にしないために、人数制限や感染予防の措置をとる工夫をして講座の開催を行った。 ⑪講座の回数もさることながら、参加した子どもたちの将来への誘いや社会人の学びの推進に今後も寄与できるように、講座内容の充実を図っていきたい。	3			
4）民家園の活用	民家園事業の実施 ・神楽公演等 ・みやざきの昔話 ・昔のくらし等 ・民家園利用事業 ・その他	年25回	14回	⑫毎週第３土曜日に開催している昔話公演は、コロナウイルス感染症により４・５・７・８月は中止になったものの、２月から参加者も増えて、昔話や手遊び唄を楽しんでいた。 ⑬昔のくらし体験では、５月に浮之城ひまわり幼保園の職員を対象に、脱穀体験を実施した。この体験を踏まえて、11月には同園の園児を交えての脱穀体験や昔のあそび体験を実施し、昔のくらしに興味・関心をもって活動に参加していた。 ⑭正月準備体験では、袋入りの餅を振る舞うなどコロナウイルス感染症の防止に努めながら、餅つきを行った。雨天での開催であったが、幅広い年齢層に好評であった。 ⑮民家園春まつりでは、昔のくらし体験や昔話公演、民謡公演や琴・ジャズの演奏など催し物を充実させたことにより、幅広い年齢層に喜んでいただいた。 ⑯民家園利用事業については、コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、５団体に活用していただいた。内容は、外国人を対象にした琴の体験や詩吟の稽古、朗読の交流会など伝統文化の伝承や民家園の周知に繋がる事業となった。	1			
5)関係機関との連携	・職員の派遣 ・他機関からの職員等の招聘 ・視察や調査の受入 ・資料貸出、出版等掲載 ・資料の借用、他機関調査や視察 ・共催事業の実施	年120件	137件	⑰職員の派遣は、小・中・高校、大学や県外の博物館などに講師や委員として、15件22回行った。講座、展示、後援会、共同研究等における研修者等の招聘については、14件15名の招聘を行った。視察や調査の受入は５機関、館外資料の貸出しは９機関、資料の館内利用は３件、出版物等に掲載・放映された資料などは６件であった。また、本館の展示や調査研究で協力を得た関係機関は85機関あった。宮崎大学及び名古屋大学博物館との連携した事業は継続して実施している。	3			
6)博物館と福祉施設との連携	福祉施設との事業実施	年80回	33回	⑱「博物館で思い出を語ろう！」については、高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象としてテーマ地域回想法を実施した。コロナウイルス感染症の拡大により、目標回数を大きく下回ったものの、手指消毒や高齢者同士の間隔を空けるなど感染拡大の防止に努めることができた。 ⑲福祉施設が自分の施設内で回想法を実施する際に利用していただくために、「昔の道具」や「おもちゃ」をパッケージにした「貸出キット」を福祉施設や学校等含め７件の利用があった。	1			
7)研究発表会の開催	研究発表会の実施	年１回	1回	⑳県内の９つの自然科学系研究団体で構成される研究発表会を３月に行った。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、過去３年間にわたって中止されていたが、今年度は実施することができた。 ㉑発表は当館を加えた10団体、参加者は42名（当館職員を含む）であった。発表に対する議論や団体間の交流が活発に行われた。	3			

（５）　情報発信

項目	評価指標		令和４年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
1)メディアを通じた情報発信	広報紙発行	年4回	4回	①広報誌「みやはく通信」を９月と４月の２回（第３号・第４号）発行、「博物館わくわく通信」を４月と10月の２回（vol.17・vol.18）発行し、県内の学校や博物館、図書館、公民館等の公共施設などに配布するとともに、ホームページにも掲載した。 ②博物館の情報を報道機関に提供する報道処理件数は68件であった。その報道処理等によりマスコミが報道した件数は、152件であった。 ③今後も館内の広報推進会議で、新たな広報手段に取り組み、情報発信に努めていく。	3	3.8	①昨年度に引き続き、ホームページの更新並びにアクセスが大幅に増加したことは大いに評価できる。SNSもインスタグラム、Facebook、ツイッターだけでなく、TikTokなど新たな発信手段等も考えていかないと思う。 ②民家園を利用してのレコードコンサートやジャズ演奏会があったと年報を見て知りました。このような芸術面とのコラボがもっと実施されると博物館への敷居が低くなると思います。以前から話題になっている美術館、芸術劇場、図書館との連携が進み、そのイベントが広く発信される事を望みます。 ③定期的にいただく案内チラシを子ども達は興味深げに見てくれます。また、テレビや新聞を活用した情報発信もよく考えられていると思います。ホームページの更新数、大変素晴らしいです。 ④広報誌発行やホームページや報道機関への提供など職員の方々の工夫や努力が伺える。 ⑤情報発信並びに発信内容の充実が図られていて評価できる。博物館を身近に感じられることに貢献していると思う。 ⑥広報について広く行われていて、チラシを手にすることも多々ありました。ホームページのアクセススも多かったとのこと、努力されていると考える。 ⑦タイムリーに博物館の情報を収集でき、ありがたいです。今後も行ってみたい、楽しそうに思えるような企画・情報発信をお願いいたします。 ⑧ホームページの更新やＳＮＳでの情報発信や、報道機関を通じた情報提供活動に積極的に取り組んでおり、大いに評価できる。引き続き、インターネット活用等による情報発信の充実に取り組んで欲しい。なお、ホームページの更新回数が目標値と大きく乖離しており、実態に即していないとも見受けられるため、今後、目標値の見直し等の検討が必要ではないかと考える。 ⑨情報発信に対する関係者の努力の跡がうかがえ,高く評価できる。博物館の魅力アップと情報発信が、常に車の両輪として前進していけるように,頑張っていただきたい。 ⑩情報発信は大変力を入れている事が見て取れます。博物館の情報の取得手段の1位はホームページとなっていますが，これはアクセス数に如実に現れているのだと思います。ホームページの更新をまめに行い，情報を積極的に更新する努力の現れだと感心しております．一方で、SNSは情報取得のツールとしては1%台でずいぶんと低い印象があります。SNSをきっかけにHPにアクセスして最終的にHPから情報取得，ということでしょうか？そのあたりの分析が課題だと思います。 ⑪現状の情報発信の頻度を大きく伸ばすことは難しいのではないかと思いますので、今の頻度を維持しつつ、情報の質の向上と費用対効果をよく見極めて、効率的な情報発信についても検討を進めていただきたいです。 ⑫細かく発信されていると感じました。大河ドラマや朝ドラは、長期間で話題にのぼる頻度も多いので、ぜひこれからもピックアップして発信してほしいです。 ⑬年度ごとに発信する方の個性があるのも楽しいです。SNS発信はタイミングを逃さずにと思います。トップの画像（特にインスタグラム）は、できればタイトルを入れるといいのではないかと思います。 ⑭Webはシェア率が高いので、今後の連携強化に期待します。 ⑮HPやSNSでの情報発信に努めている状況は十分に把握している。個人的には、県総合博物館が行うイベントについては、X（旧Twitter）で情報を得てイベントに行くようにしている。	3.9
	報道処理件数	年50件	68件		4			
2)ホームページの充実	ホームページ 更新回数	年60回	年626回	④博物館ホームページへのアクセス数は、年348,168件となり、目標値を大きく上回る事ができた。これは、トップページのイベント紹介や新着情報などを、積極的に更新したことが要因と思われる。 ⑤ＳＮＳでは特別展や講座の様子、季節ごとの情報など、タイムリーで博物館の身近な話題提供などを積極的に行い、インスタグラムでは年間152件、Facebookでは年間159件、ツイッターでは年間164件の投稿を行う事ができた。今後も博物館の全職員で効果的に活用していきたい。	4			
	ホームページアクセス件数	年 500,000件 ※再設定した目標値 21,000件	348,168件		4			
	ＳＮＳ投稿回数 ・insta ・FB ・X（旧twitter）	年300回	475回		4			

（6）　経営

項目	評価指標		令和４年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	総合評価
1)博物館協議会や県民の意見の尊重	アンケート収集件数	年2,000件	2,016件	①アンケート収集件数については、2,016件のアンケートが回収でき、目標数に達することができた。また、「満足した」と「やや満足した」を集計した本館サービスに対する満足度については、集中アンケート期間で90.8％、全体アンケートで93.8％となり、目標を大きく上回った。 ②今後もアンケートの積極的な回収に努め、利用者の意見を館の運営に活かしていく。	3	3.3	①アンケートの満足度が令和2年度94％、令和3年度93％、令和4年度93.8％と高い数値を維持しており、高く評価できる。毎年お願いしているが、６％の方が満足できていない（やや満足できていないなど）という回答があるので、どのような意見が出たのか知りたい。少数意見は大事である。 ②研修について、集合型の研修だけでなく、オンライン研修などが増えることで、複数職員の研修のチャンスが生まれるので有効活用してほしい。（出張すれば予算上1名しか参加できないが、オンラインだとより多くの職員が研修参加可能） ③経済的にどの程度の補助があり支出があり、何が不足しているのかがわかりませんが博物館独自での収入確保は困難だろうと予想できますので、補助金増や業者とのタイアップが必要なのだろうと思います。ご苦労お察し致します。 ④年度末の報告会をオンラインで参加させていただきました。細かな研究にびっくりすることばかりでした。今年度も、オンライン参加が選択肢にあるとありがたいです。 ⑤小学校低学年にも分かりやすく説明してくださった学芸員の方々に感謝します。 ⑥アンケート収集により意見を運営に生かされていることや、博物館職員の資質向上を図る研修等に積極的に取り組まれており高く評価できる。 ⑦助成金等の活用で事業を展開されたり、リニューアルがあったとはいえ、年季が入った施設での運営には、危機管理体制の重要性を感じた。 ⑧「安全」「安心」を確保し足を運びたくなる博物館への助成金申請や運営をお願いいたします。 ⑨来館者アンケートを計画どおりに実施し、現状把握と内容検証にしっかりと取り組んでおり、加えて、来館者アンケートの「本館サービスに対する満足度」が目標値を上回り、90%を超えているのも大変評価できる。ただ、この中で、展示解説への満足度について、４割が解説を受けていないと回答があったため、来館者への声かけなどの、より多くの来館者に展示解説を利用してもらうための働きかけを行うことが望まれる。なお、来館者アンケートを平成14年度以降、実施しているとのことであり、その結果の経年比較したものを、年報に掲載して欲しい。 ⑩アンケート、職員研修、防災訓練は、引き続き丁寧に取り組んでいただきたい。 ⑪外部資金の導入は、単に財政面に止まらず、より質の高い展示の実施、博物館の魅力アップ等をめざし、積極的な取組を期待する。 ⑫外部運営資金への応募ができる件数の増加は期待できます。 ⑬アンケートの数は目標を超えていますが、来場者数に対する比として見るとほぼ1％なのは正直物足りなさを感じます（次期中期計画では割合で目標設定するのが望ましいのではないかと思います）。20歳未満が全体の6割を占めている点も、結果が全体の評価を反映しているのか吟味が必要だと思います（年代別の回答の傾向の分析が必要）。令和5年度からオンラインアンケートも導入されているとのことで、どれくらい効果があるのか期待したいです（ぜひ来年度オンラインでの回答数と紙での回答数を示してください）。 ⑭外部資金の獲得も積極的に進められており、苦しい財政のなか大変努力されている事と思います（申請は5件ではないでしょうか？）。今後も資金獲得には積極的にチャレンジしていただきたいです。申請数に対して採択がいくつか明示していただきたいです（申請した分はすべて採択されたとの認識で間違いないですか？） ⑮職員の県外研修について、コロナ禍以後オンラインでの参加可能な研修が増えれば、これまでよりも参加回数を増やせるのではないかと期待している。外部資金獲得にも積極的であることは好ましい。さらに今後は学芸員の調査研究についての外部資金獲得も目指してほしい。昨今の光熱費高騰を背景に、国立科学博物館のクラウドファンディングがニュースになっているが、貴館はいかがであろうか。そもそも建物が古く、燃費が悪いのではないかと心配している。資料の保護・保存のための設備についても見直しが必須ではないか。県財政は厳しいであろうが、県立博物館の役割を果たし続けるためにも、建て替えを検討されることを強く希望する。 ⑯コロナ減少後、観客数も回復し、アンケート実施など様々な反応や意見を取り入れて努力されていると感ずる。外部資金獲得等の努力もお願いしたい。 ⑰特別展を小学生の内に一度はみせてあげられないかと思う。宮崎市外の遠くの市町村の子どもたちが、順次来れるような予算獲得を県の取組としてお願いしたい。（長期的な事業になるが） ⑱アンケート結果の満足度が高く、外部資金の獲得も積極的に行われている。 ⑲職員の資質向上や危機管理体制強化の取り組みに感謝する。 ⑳アンケート回収率が目標数に達成したのは、今後の期待の表れだと思います。 ㉑外部運営資金申請、大変だと思いますが、今後も期待しています。 ㉒アンケートの実施及び回収数も計画どおりであり、総合的な満足度は計画以上の高数値を確保しているため、各種展示やイベント等の内容が充実していたことが理解できる。	3.3
	集中アンケート実施回数及び満足度	年4回 満足度80％	4回 90.8％		3			
	全体満足度	80％	93.8％		3			
2)職員の資質向上	研修の実施と参加	年20回	20回	③基本研修では、全職員向けのコンプライアンス・危機管理・人権研修等について４月、２月の２回実施し、３月には学芸課職員による調査研究報告会を実施した。 ④県外研修等として、関係職員が学芸員研修会や協議会研修会などに参加し、職員の研修機会の確保と資質向上を図ることができた。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全国規模の研修会のいくつかはオンラインで実施された。 ⑤展示解説員の研修として、西都市、児湯地区を訪れ、歴史、考古、植物、地質などの実地見学を行った。 ⑥今後も引き続き館内外の研修の機会を確保し、職員の資質向上に努める。	3			
3)危機管理体制の強化	防災訓練	年２回	４回	⑦月には、全職員を対象とした危機管理マニュアルに関する研修を行い、６月と９月に、日向灘南部を震源とする震度５の地震を想定した防災訓練（避難誘導や伝達訓練）を実施した。また、９月の防災訓練の際には、宮崎北消防署の応急手当に関する出前講座を受講し、緊急時の対応について研修を行った。 ⑧１月には、宮崎北消防署・埋蔵文化財センター分館職員と合同で、民家園における防災訓練（避難誘導、消火訓練）を実施し、消火設備の操作方法の研修も行った。 ⑨今後も、利用者の「安全」「安心」の確保のため、危機管理体制の強化に努める。	4			
4)外部運営資金の獲得	外部運営資金への応募件数 ＊県基金、 公共機関助成金・補助金、 民間の助成金・補助金	年２件	４件	⑩夏の特別展「モンスター水族館」や、特別展関連講座において、公益財団法人日本海事科学振興財団の「海の学びミュージアムサポート」へ助成金申請を行い、支援を受けた。 ⑪令和５年度秋の特別展「黒潮はくぶつかん」に向けて、「公益財団法人日本海事科学振興財団」及び「全国科学博物館振興財団」へ助成金２件の申請を行った。 ⑫「蒙古襲来絵詞（楽翁本）」保存修理事業に関する「住友財団文化財維持・修復事業助成」と「三菱財団文化財保存修復事業助成」を申請した。	4			
その他のご意見	①職員の方々のいろいろな工夫が感じられました。 ②地域での講演を依頼された際に、たまに「なぜ宮崎の博物館には地震や火山に関する展示がないのか？」「博物館に地震関係の常設展示をして欲しい」となぜか私に求められることがあります（私が博物館の協議会員であることは特に知らないはずなのですが）。県民からのリクエストとして、そういった意見があることをお伝えしておきたいと思います（私の知人の研究者も博物館が好きで宮崎に来たときには時間があれば足を運んでいるそうですが，やはり地震・火山・津波に関する展示がないねとぼそっと言われたことがあります） ③コロナ禍で苦労されている中で得た新しい知識やノウハウが、コロナ前の状況に戻りつつある今後の博物館運営においてどのように活用されるのか期待しています。博物館の醍醐味はやはり現地で実際に自分の目で見て感じる事だと思いますが、一方でオンラインでのやりとりは、遠方で今まで博物館になじみがなかった人たちに博物館の面白さを知ってもらい、興味を持ってもらって、来場につなげられるような機会でもあると思います。例えば博物館講座などは、オンラインでの配信を今後デフォルトとして実施出来るように、準備や運用が容易にできるように設備の更新・拡充なども検討いただけると良いのではないかと思います。 ④上記と重なりますが、アンケートについても値の変遷が見たいです。毎年その結果に変化があるのかないのか、あるとすれば何が原因なのかを探る上で重要だと思います。数年分のアンケート結果を年ごとにグラフ化するなど，数値の見える化をすることでより客観的な解釈につながると思います。 ⑤各種の数字については，前年度からの変化を見たいです。少なくとも，内部評価については前年度の評価と基本的には同じ評価項目ですので実績値と内部評価・外部評価の値を併記頂きたいです（年報を見れば確かにわかるのですが、併記頂いた方がぱっと見てすぐ判断しやすいです）。可能な範囲で結構なのでご検討ください。				